

幼稚園教諭として働いて約10年になります。

そんな職をしながら少しずつ自分の中に生まれてきた違和感。子どもの生きる力や主体性を育てたいと思いながらも漠然と自分がその思いに向き合えているか不安になりました。小学校の準備の為に練習させること、時間を守るように声をかけること、大人が準備した環境で行う活動...日々忙しく、こなすだけの毎日でこれで子ども達は育つのか...社会に遅れを取らないようにだけすればいいのか?そんな悶々とした気持ちを抱えて、焦りを感じていた私はSNSで森の育ち場のことを知りました。初めは何かワークショップを開催しているのかな?と思って見ていくと、ワークショップのような特別だと思っていた経験が日々の中にあること。写真からでも伝わる子ども達の心が動いている瞬間と逞しさ...そして"認める"ってどういうことだろう。知りたい。と思ったのがきっかけでした。緊張しながら研修依頼のメールを送信しました。

研修初日、少し緊張する私を温かく迎えてくださったスタッフの皆さん。そして、私がここにきた理由をアリーに伝え、今回は子ども同士の会話や子どもとスタッフのやりとりに耳を澄ませ、見守らせてもらうことに。

朝のミーティングでは自分の気持ちを、受け止めてもらう。それは子どもだけではなくて、スタッフや保護者の方も聞いてもらう。この輪を見ていると、大人だろうが子どもだろうが、人として話を聞いてもらえる...この輪の中には受け止めてもらう環境がある安心感を感じました。後にアリーと話す「自分に追いつく」ためでもあるとのこと。さて、これは私自身ができているだろうか...?

1日目はこの年齢にしてこんなことができるのか?!という子どもたちの秘めた力の衝撃と共に、これまで行ってきた自分の保育と重ねてみると胸が痛くなった。でも、アリーに言われた「自分に追いつく」を私もやってみようと。今日感じたことをありのまま大事に受け止めました。

2日目は2学期の最終日。子どもたちもみんな揃い、嬉しく1日が始まった。竹とんぼ作り、鬼ごっこ、お家ごっこ、大人も子どももみんな自分の時間を楽しみながらも何か感じたり、困ったりしたら相談し合っ...違うことをしていても一緒にいるという安心感を感じる輪。見てる私も心が満たされるような平和で幸せな時間を過ごせました。

1日の中では喧嘩したり、意見がぶつかることがある。でも周りの子はその状況を"そんなこともあるよね"という感じで見守る。ぶつかっている本人同士は泣いたり、叫んだりしながらも想いをぶつける。これを思い切りした後の子どもたちは「ごめんなさい」が無くたってまた自然と輪に戻っていく...流れゆくような子どもたちの姿に心がグッとなりました。

私が見守ったのはたった2日間だけだったけれど、ここまでの姿になるまで子どもたちは色々な事があったと思う。そしてまだ途中で、この日々はまだ続いていくのだな。と感じました。

最終日に子どもたちの様子を見ながら、アリーとお話をした。自分の感じていた違和感が間違いではなかった事。自分の気持ちを無視しなくてよかったと心から思った。それを感じた2日目だったので質疑応答しなくても、なんだかアリーと想いが通じ合った気がしました。やり方じゃない。気持ちなんだと!

最後はあたたかいハグをしてお別れ。私を仲間と呼んでくれて嬉しかったです。

保育者として学びにきた気持ちが大きかったけれど、人としてどう生きたいか考えさせられる時間でした。皆さんに会えて良かったです。この感じた想いを持ってまた子どもたちとの日々を大切に生きていきます。心から感謝を込めて。